



The 36th Congress of Japan Association for Clinical Engineers

第36回日本臨床工学会

ランチョンセミナー4

Luncheon Seminar 4

日時

2026年 5月16日(土) 12:40~13:40

会場

第4会場 (福岡国際会議場 2F 会議室203)

〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町2-1

臨床工学技士の業務改善と タスクシフトの展望

座長

本間 崇 先生

善仁会グループ 相談役

臨床工学技士の業務改善 —様々なアプローチ—

演者

關根 蔵 先生

東京警察病院 臨床工学科 係長

麻酔器管理から広がる臨床工学技士の役割 —安全運営とタスクシフトの未来につなぐ第一歩—

演者

山田 二三歩 先生

横浜市立大学附属市民総合医療センター

臨床工学部 係長/

東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科

臨床准教授

本セミナーは事前申込制です

詳細は学会ホームページをご確認ください。

<https://jace2026.fcet.or.jp/>

共催:第36回日本臨床工学会 / フクダ電子株式会社

第36回日本臨床工学会

ランチョンセミナー4

臨床工学技士の業務改善

— 様々なアプローチ —

關根 蔵

東京警察病院 臨床工学科 係長

当院では臨床工学技士が医療機器の進歩や業務に合わせて、点検や運用支援を進めながら、安全でスムーズな医療提供を行っている。手術室では、内視鏡下手術の増大に伴い、各診療から多様な器材申請が増える中、臨床工学技士が点検・共通化・互換性を精査し、最小限の増加に抑えつつ業務拡大に対応し、安全で効率的な手術環境づくりに寄与した。内視鏡室では従来、医師や看護師が担っていた機器管理を、機器の高度化と運用量の増大に伴い臨床工学技士が体系的に引き継いだ。機器点検や保守計画を専門的に管理する事で保守費を軽減し、必要スコープの把握と適正配置を進め、過剰分の削除と必要分の増加を両立させた。これらの取り組みにより、安全性と効率向上を実現した。さらに院内の医療機器とシステムが高度化に対し、医療情報管理課と連携してネットワークの管理や設定統制を強化し、ランサムウェア対策を含む安全な運用体制の確保にも取り組んでいる。

麻酔器管理から広がる臨床工学技士の役割

— 安全運営とタスクシフトの未来につなぐ第一歩 —

山田 二三歩

横浜市立大学附属市民総合医療センター 臨床工学部 係長/
東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科 臨床准教授

近年、タスクシフトの流れの中で麻酔領域における役割分担が注目されている。しかし、当院では麻酔補助業務の体制構築には現在至っていない。本講演では臨床工学技士がまず機器管理の側面から安全に寄与する意義について整理したい。麻酔器の始業点検をはじめとした日常的な機器管理は、手術室の安全運営を支える基盤であり、トラブル回避や円滑な手術開始に大きく関与している。これらの積み重ねは、手術室全体の信頼性を高める重要な要素といえる。

一方、集中治療領域では、臨床工学技士は欠かせない職種として定着し、診療報酬上も体制の一要件として評価されてきた経緯がある。麻酔領域においても、高度化する麻酔器を適切に理解し活用することで、安全性や術中患者管理の質向上に関与できる可能性がある。まずは機器管理を通じて確実に価値を発揮し、その延長線上で役割を広げていくことが、将来のタスクシフトにつながる現実的な一歩になると考える。